



2月 パストラル 加古川

KAKOGAWA

令和元年1月25日
[編集・発行]
パストラル加古川
加古川市平岡町
新在家1224番16
発行責任者：山本弘樹

近隣のイベントのご案内

涅槃会 教信寺(加古川市)

釈迦の入滅した日に行われる法要。

【開催日】 2月15日

【開催場所】 加古川市野口町野口465

【お問い合わせ】 教信寺塔頭法泉院

☎079-4227189



八幡神社・厄除け大祭(加古川市)

播州地方(東播・北播・西播)に春を告げる祭りとも、播磨の三大祭りの一つともいわれる当神社の厄除け祭は、毎年2月18日・19日に行っております。

これは旧暦に従ったもので、厄年も昔ながらの数え年で計算すると同じく、古来の伝統を重んじる趣旨です。清麻呂公の難を救った猪が出た、当八幡宮に対し、いつの頃からか、誰いうことなく厄除の大神と崇敬されるようになりました。

【開催日】 2月18日・19日

【開催場所】 加古川市八幡町野村580

最寄駅・JR加古川線厄神駅

(但し車で5分・徒歩30分)

【お問い合わせ】 ☎079-43386522



高砂染展―播磨の型染、ことほぎの美―

姫路市書写の里・美術工芸館で新春特別展示「高砂染展―播磨の型染、ことほぎの美―」を開きます。

高砂染は、江戸時代後期を中心に、姫路藩の特産物の一つとして、幕府の献上品や藩客への贈り物として用いられました。

同展では、着物や型紙などの展示で歴史を紹介、昭和期に廃れた高砂染の現代における復元の試みについても迫ります。

【開催日】 1月7日(火)～3月22日(日)

10時～17時(入館は16時半まで)

【休館日】 月曜、1月14日、2月12日、25日(休館)

(ただし2月24日は開館)

【開催場所】 姫路市書写の里・美術工芸館

【お問い合わせ】 ☎079-126710301

【入館料】 一般310円



『スケッチでたどる兵庫の建築と景観』

兵庫県立歴史博物館で、特別企画展「スケッチでたどる兵庫の建築と景観」を開催します。

兵庫県各地の古民家や街並みを色鮮やかに描いた元美術教師の故内海敏夫さんと、歴史的建造物などを単色のペン画で描く建築家の沢田伸さんのスケッチで、懐かしい風景を紹介する展覧会。作品を通じて、兵庫五国それぞれの近代の歩みをたどるとともに、古き良き兵庫の魅力を広げたい。

【開催日】 1月25日(土)～3月22日(日)

10時～17時(入館は16時半まで)

【休館日】 月曜、2月25日(火) (ただし24日は開館)

【開催場所】 兵庫県立歴史博物館

姫路市本町68

【お問い合わせ】 ☎079-28819011

【入館料】 一般500円

『フリースペルライヴIN鶴林寺』

北欧音楽と和の空間が融合するライブ！

北欧音楽と和の空間が融合するスペクタクルライブ！北欧の笛の魔術師ヨーラン・モンソン率いる最強リコーダトリオ「フリースペル」が、パーカッションニストのイェペル・ラングストロムを引き連れ、スウェーデンから来日！ 国宝鶴林寺を舞台に、20種類以上の笛と多彩な打楽器を用いたライブを届ける。

【日時】 2月29日(土)

2時スタート(1時半開場)

【開催場所】 鶴林寺 浄心院内

【入館料】 一般1,000円

(拝観料を含む 全席自由)

【お問い合わせ】 加古川市民会館

☎079-42415381



Vincent van Gogh 展

ハーグ、そしてパリ。

ゴッホへの道一

1月25日(土)～3月29日(日)
兵庫県立美術館
神戸市中央区臨海海岸通1-1-1
(HAT 神戸内)
JR 神戸線灘駅南口から南に
徒歩約10分
078-262-0901 (代表)

いなみの万葉の森 陶板歌碑

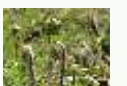
石激る 垂水の上の さわらびの

萌え出づる春に なりにけるかも

作者 志貴皇子

歌意

岩の上を走り流れておちる瀧。そのほとりのわらびが、芽を出す春になったなあ。



節分

本来、節分とは季節の節目である「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のことをいい、年に4回あります。ところが、旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分(2月3日頃)は、大晦日に相当する大事な日でした。そこで、立春の前日の節分が重要視され、節分といえはこの日をさすようになったのです。昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、さまざまな邪気払いの行事が行われてきました。おなじみの豆まきも、新年を迎えるための邪気払いの行事です。

恵方巻

恵方巻は、その年の恵方を向いて丸かじりすると願い事が叶い、無病息災や商売繁盛をもたらすとされる縁起のよい太巻きです。

大阪発祥の風習ですが、関西地方で親しまれ、現在は全国的な広がりをみせています。

恵方巻には、縁起よく七福神にちなんで7種類の具を入れ、巻き込んだ福を逃さぬよう丸ごと1本、恵方を向いて無言で食べるとよいとされています。

また、太巻きを鬼の金棒(逃げた鬼が忘れていった金棒)に見立てて、鬼退治ととらえる説もあります。

節分の魔除け

鬼は、鰯(いわし)の生臭い臭いと、柀(ひいらぎ)の痛いトゲが大の苦手とされています。そこで、鰯の頭を焼いて臭いを強くしたものを柀の枝に刺し、それを玄関先にとりつけて、鬼が入ってこないようにする風習があります。これを「焼嗅(やいかがし)」「鰯柀」「柀刺」「柀刺し」などと呼びます。

地方によっては、豆がらやトゲを添えるものもありませんが、昔から臭いの強いもの、トゲのあるもの、音のなるものは魔除けや厄除け効果があると考えられているからです。

